

佛教大学国際学術研究叢書 4

仏教と癒しの文化

第22回国際仏教文化学術会議実行委員会編

思文閣出版

本書は、2012年10月27日に佛教大学（日本・京都市）にて開催された「第22回国際仏教文化学会」の基調講演および研究発表を修正・加筆し、研究成果として刊行したものである。

巻頭言	山極伸之
刊行のお祝い	丁世鉉
癒し文化のビジョン——仏教に現代人の治癒を問う——	朴相権..... 9
仏教と癒しの文化——在宅ターミナルケアの現状——	田中善紹.....38
病める社会の診断とその治療	柳聖泰.....51
日本仏教に見る救済と癒し——地藏信仰を中心に——	笹田教彰.....75
懺悔修行を通じた現代人の仏教的治癒	金道公.....98
——元曉の『大乘六情懺悔』を中心に——	
鎮める学習への転換	白石克己.....125
第22回国際仏教文化学術会議 総括	藤堂俊英.....155
要旨 (英文・ハンゲル)	
執筆者紹介	
翻訳者紹介	

巻 頭 言

佛教大学学長

山 極 伸 之

佛教大学は、2012年10月23日に開学100周年という大きな節目を無事に迎えることができました。これもひとえに、本学に関わりのある有縁の皆さま方のご支援の賜物であると、あらためて感謝申し上げます。

本学は100年にわたる歴史を刻むにいたりましたが、1912年の開学以来、変わることなく仏教精神に根ざした人間教育に力を注いできました。とりわけ、国際化・グローバル化が進む社会の中で、国際感覚をもって活躍できる人材を養成することを人材養成の目的の一つに掲げ、世界の教育研究機関等との国際交流を通じて、教育・研究活動の活性化ならびに国際交流にともなう活動を通じた社会貢献にも取り組んでまいりました。

国際学術交流の面に関しては、アジアを中心とする諸国の大学や研究機関との交流を積み重ねてまいりましたが、なかでも本学が仏教精神を建学理念とする大学であることから、韓国、中国、台湾を中心とした仏教系の大学や研究機関等との学術交流を積極的に進めてまいりました。さらに現在はベトナム、モンゴル、ハワイなど、さまざまな地域の大学や研究機関と学術交流協定を締結し、多様な取り組みを展開するにいたっております。

このような取り組みのなか、佛教大学と韓国・圓光大学校との交流は、

本学の国際学術交流の中で最も長い歴史を有するものであり、第1回国際仏教文化学術会議の開催は、実に1973年に遡ります。以来、韓国・日本の両国において、およそ40年にわたり、さまざまなテーマのもとで学術会議が開催されてきましたが、2012年には「仏教と癒しの文化」をテーマとして第22回の学術会議が開催されました。本書は、佛教大学で開催されました第22回国際学術会議の成果として、基調講演ならびに研究発表を収めたものであります。

世界のグローバル化とともに、急速に社会状況が変化する混沌とした現代社会において、私たちはあらためて仏教が有する現代的な意義や課題について問い直すべき時期にいたっていると考えます。第22回の学術会議では、「仏教と癒しの文化」という共通テーマのもと、仏教と癒しとのつながりや、現代社会の諸課題に対する癒しの必要性和仏教の役割等について、韓国と日本の研究者の方々により、多面的に議論いただきました。その成果が本書に掲載された内容であります。この成果が、日韓両国のみならず、仏教の現代社会に対する寄与への一助として、多方面で活用されますことを祈念してやみません。

最後になりましたが、本書に貴重なご報告を頂戴いたしました諸先生に心より感謝申し上げますとともに、第22回国際仏教文化学術会議の開催ならびに本書の出版のためにご尽力いただきました、両国の関係各位にあらためてお礼申し上げます。

刊行のお祝い

圓光大学校総長

丁 世 鉉

昨年、佛教大学は100周年を迎えました。改めてお祝い申し上げます。圓光大学校との学術交流も40周年を迎え、記念すべき第22回国際仏教文化学術会議が佛教大学で開かれることになりました。大会後には、お互いの研究成果が佛教大学国際学術研究叢書という形でまとめられ、何よりの喜びを感じております。

人間の心と癒しに関する問題は、いまや日本と韓国だけでなく全世界が注目するテーマになっております。『仏教と癒しの文化』は、仏教的な観点から人間の心と癒しへの方法を考え、新たな方向性を示す研究成果として非常に意義深いものといえるでしょう。特に、悟りへの追求や教学論理だけに焦点を合わせようとする仏教学が、人々の根本的な苦と悩みに実践的な方法をもって答えようとした点におきましては、従来の研究に比べても大きな意味を持っていると確信しております。

本書の出版を機に、現代人の心と癒しへの道が開かれること、そしてそのために大乘仏教の多様な方法論が提示されることを願っております。また今後、より具体的かつ可視的な成果を期待いたします。貴重な報告や原稿の提出にご協力いただきました両国の先生方に、もう一度お礼を申し上げます。

癒し文化のビジョン
——仏教に現代人の治癒を問う——

朴 相 権

[要旨] 現代社会では、福祉の欲求が変化するのにもない治癒に対する関心も高まり、各種の治癒プログラムが多様に運用されている。音楽、美術、文学など芸術分野で遂行する治癒プログラムは大衆に参与を呼びかけており、医療分野でも精神的治癒に大きな役割を果たしはじめている。人文学の分野では哲学治癒が活発に展開されており、瞑想修行など宗教的な治癒方法は自分の宗教という信仰の領域を超えて関心と参与率が高く推移している。一方、これらの治癒プログラムは商業主義に便乗する面があり、多くの問題を露呈しているのも事実である。

治癒のための診断と方法において苦痛の原因を個人の問題として決め付けることは完全な治癒を不可能にしている。したがって、筆者は個人の治癒、すなわち「自己治癒」とともに環境的な要因を修める治癒である「社会的治癒」に注目しなければならないと主張する。これは仏教を超えてすべての宗教の本分であり、宗教人として遂行しなければならない役割であるとする。とくに、仏教界でこのような修行に力点をおくことは仏者の使命であるという点を強調する。

序 論

21世紀に入り、治癒への関心は高まっている。とくに、人文学の究極的な目的が治癒にあるという主張も説得力をもつ。伝統的に治癒(healing)という意味は疾病から身を守るという治療が主で、そこでの⁽¹⁾

治癒は医学の専有であった。しかし、物質生活が豊かになり、医学の発達によって肉体の疾病を治療するのは以前に比べて優れた進展をみせている。そこからより高い次元の福祉実現、すなわちまことの幸福を求めようとする欲求が増し、精神的、霊的な治癒への関心が高くなった。

さて、治癒とは今世紀に入っていくなりあらわれた話題ではない。古代を越えて原始時代の文化をみても治癒ということは人間生活の中でもっとも大きな比重を占めてきた。各種の神話や原始宗教の儀礼などでも肉体と精神の治癒文化がうかがえる。かかる文化が進化しつつさまざまな形態の文化を派生させており、治癒の分野も細分化された。現代の多様な学問は治癒の方法論的な進化の産物であるといっても過言ではないだろう。

現代社会は全方位的な治癒が必要となった。現代の発達した医学は肉体の治癒(治療)のみならず、精神的な治癒までその領域を拡大している。医学は精神的もしくは霊的な苦痛と関連していることにまで医学的な診断と処方を下す。つまり、医療界では神経・精神系統の診療科目を開設し、人文学を導入して心理学・精神分析学・相談心理などの体系を次第に立てていく。けれども伝統的な霊的治療の方法については科学的に検証されていないという理由で排斥している。医学の蛮勇と傲慢であるといえる。

世界保健機構(WHO)の憲章によると「健康は単純に疾病がない状態のみならず、身体的・精神的・社会的な生活の全般で完全な状態⁽²⁾であるという。最近では霊的な次元での完全な安寧状態も健康の定義に付加しようとする動きもあるが、これは人間の健康とそれに基づいた幸福を総体的に把握しようとする努力の所産であるといえる⁽³⁾。

既存の心理治療に対して人文学的な治癒のためにさまざまな試みがなされ、具体化している。哲学・芸術・文学などを通じた治癒、または宗

教伝統で発展してきた瞑想と修行の治癒など、治癒への接近方法はもっと多様になり、その領域も身体的な治癒から精神的・霊的治癒に拡大している。

1 現代の多様な治癒文化

(1) 心理治療

西欧社会で治療(curing)はヒポクラテス(Hippocrates)以後、医学の領域として独立した。これは合理的であり、科学的な方式に基づいた疾病の治療を意味することであった。しかし、相変わらず人間の精神的・霊的な側面では、宗教・芸術・文学などがその機能を遂行してきた。

しかし、宗教本来の治癒機能はその機能と効能が理性的・合理的な証拠を提示しにくい、という点から過去に比べて現代社会では宗教への依存度が顕著に低下している。のみならず、一方では宗教の治癒機能が神秘主義、または迷信的・巫俗的であるという理由で貶されているのが実情である。理性主義・合理主義の思潮を背景とする科学万能主義の流れはこのような問題を克服するために「精神医学」という名前で合理性・明証性を求める新学問を登場させた。理性主義・合理主義の流れを受容しつつ、人間の心理に対する客観的な学問の世界に進入しようとする意図であろう。

近代以降、科学の発達とともに西洋医学も大きな発展をみせてきた。とくにジークムント・フロイト(S. Freud)が初めて精神分析を創案して以来、近代の西洋医学で誕生した「心理治療」は今も多様に発展し続けている。既存の心理治療は、病院という空間で神経精神科の医者や臨床心理士などが患者を対象として症状を取り扱う過程の治療行為であった。専門的な関係をもとにして心理的・情緒的な問題を深層的に接近・分析し、人格の再体制化を追求するのである。しかし、コルシーニ(R.⁽⁴⁾

執筆者紹介（収録順）

①生年・出身地 ②最終学歴 ③職歴 ④主な著書

朴 相 権 (박상권 / Park Snagkweon)

- ①1948年韓国・全羅北道南源生。
- ②圓光大学校大学院（圓佛教学）哲学博士。
- ③圓光大学校圓佛教学科教授。圓佛教大事典編纂委員長。
- ④『圓佛教信仰論研究』（叢書，圓光大出版局，1996年），『クリック圓佛教』（共著，東南風，2000年）など。

田 中 善 紹 (たなか よしつぐ)

- ①1950年京都府生。
- ②京都府立医科大学医学部卒。
- ③田中医院院長。浄土宗西山禪林寺派光明院住職。
- ④「在宅医療は一般診療所が中心となるべき」（『日本医事新報』No. 4611, 2012年）, 「京都新発見～お寺、診療所そして禁煙～」(『すこやかハート』No. 106, 2009年), 「僧医講座 仏教と医学のかかわり」(『知恩』2013年4月～連載中) など。

柳 聖 泰 (류성태 / Ryu Sungtae)

- ①1959年韓国・全羅北道井邑生。
- ②圓光大学校大学院（圓佛教学）哲学博士。
- ③圓光大学校圓佛教学科教授。圓光大学校東洋学大学院長。
- ④『圓佛教と東洋思想』（圓光大出版局，1995年），『莊子哲学の智慧』（学古房，2011年），『見性と圓佛教』（学古房，2013年）など。

笹 田 教 彰 (ささだ きょうしょう)

- ①1956年大阪府生。
- ②大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。日本仏教思想史。
- ③佛教大学仏教学部教授。
- ④「無住國師の生死観」（『日本佛教学会年報』75, 2010年）, 「『沙石集』の一考察」（『佛教学部文学部論集』93, 2009年）, 「宿業をめぐる冥と顯」（池見澄隆編著『冥顯論 日本人の精神史』法蔵館，2012年）。

金 道 公 (김도공 / Kim Dogong)

- ①1967年韓国・全羅北道益山生。

- ②圓光大学大学院（佛教学）哲学博士。
- ③圓光大学校圓佛教学科教授。
- ④「法蔵の教判に対する問題提起」（『凡韓哲学』Vol.43, 2006年）, 「圓佛教靈性世界の特微と意味」（『新宗教研究』Vol.19, 2008年）, 「圓佛教の死教育と生死観」（『新宗教研究』Vol.24, 2011年）など。

白石克己（しらいし かつみ）

- ①1944年東京都生。
- ②慶應義塾大学大学院博士課程教育学専攻（単位取得退学）。
- ③佛敎大学教育学部教授。
- ④『生涯学習を拓く』（編著，ぎょうせい，2001年），「本居宣長にみる遠隔教育の原理——『へだたり』・『やりとり』・『つながり』——」（共著，『「教育」を問う教育学』慶應義塾大学出版会，2006年），「歴史の探求——生涯学習の原型」（『日本生涯教育学会年報』28号，2007年）。

藤堂俊英（とうどう としひで）

- ①1947年和歌山県生。
- ②佛敎大学大学院文学研究科博士課程仏教学専攻満期退学。
- ③佛敎大学仏教学部教授。佛敎大学附属幼稚園園長。知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員。
- ④『仏教と看護』（共編，法蔵館，2013年）など。

翻訳者紹介（収録順）

権 東 祐（권동우／Kwon Dongwoo）

- ①1972年韓国・全羅北道金堤生。
- ②佛敎大学，文学博士（仏教文化）。
- ③圓光大学校圓佛敎思想研究院責任研究員。
- ④翻訳「癒し文化のビジョン——仏教に現代人の治癒を問う——」「病める社会の診断とその治療」

李 容 株（이용주／Lee Yongjoo）

- ①1969年韓国・SEOUL 市生。
- ②インド・デリー大学校，哲学博士（インド仏教）。
- ③圓光大学校正訳院研究教授。
- ④翻訳「懺悔修行を通じた現代人の仏教的治癒——元曉の『大乘六情懺悔』を中心に——」

佛教大学国際学術研究叢書 4

ぶつぎょう いや ぶんか
仏教と癒しの文化

2013(平成25)年9月30日発行

定価：本体1,900円(税別)

編者 第22回国際仏教文化学会議実行委員会

発行者 佛教大学学長 山極伸之

発行所 佛教大学国際交流センター

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

電話 075-491-2141(代表)

制作
発売 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷
製本 株式会社 図書 同朋舎

© Bukkyo University, 2013 ISBN978-4-7842-1706-9 C1015